

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4095500015
法人名	社会福祉法人 清浄会
事業所名	グループホーム なびき
所在地	福岡県宮若市下有木1507-1 (電話) 0949-32-3603

評価機関名	特定非営利活動法人 ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	直方市知古1丁目6番地48号		
訪問調査日	平成 21年 12月 21日	評価確定日	平成 22年 1月 7日

【情報提供項目より】(平成 21年 11月 30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 13.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,200 円	その他の経費(月額)	10,000円 光熱費等
			冬季加算1月~3月 2,430円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金否)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	一日当たり1,000円		

(4) 利用者の概要(11月 30日現在)

登録人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	5	要介護2	5		
要介護3	4	要介護4	3		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 89歳	最低	70歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮田病院 武田歯科医院 宗像病院 小竹町立病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームなびきは、母体法人運営の介護老人保健施設・通所リハビリテーション・居宅介護支援・在宅介護支援センターと同じ敷地内にある2ユニットのグループホームである。静かな田園地帯にあり、ホームを取り囲む桜は季節ごとに花や紅葉を見せ、入居者や訪れる人達の目を楽しませてくれる。ホームは施設の利用者や地域住民、職員の往来がある施設の入り口にある。外出の好きな入居者が多く、車の通りの少ない農道への散歩や小川での魚釣り、他市の大型スーパーへの買い物ツアーは施設側の対応も良く好評である。開設当初よりボランティアから指導を受けている書道の作品もそれぞれ熟練の趣があり、居間や居室に展示されている。今年度は地域のグループホーム協議会に加入し、開設8年目を迎えたホームとして意見を交換したり、介護理念を入居者・家族にもわかりやすい言葉に変えようと職員で取り組み、「その人らしさを大切に、笑顔でよりそう」と表現を変えている。理念を介護計画に反映させ実践に取り組むために、法人内の研修やホームの研修計画に沿って、職員の自己研鑽を進めている。今後も地域の介護情報の発進の場としての役割が期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	水分摂取の把握や成年後見制度の家族の説明、アセスメントやモニタリング記録の整備など具体的に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各職員が分担して取り組み、ミーティングで共有している。職員は自己評価することで、初心に帰る良い機会を得ている。
重点項目③	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議に関する既定を作成し、適切なメンバーで2ヶ月ごとに開催している。他の地域のグループホーム管理者も参加し助言を得ている。家族が歩行困難になった入居者が歩けるようになったことを感謝の念をこめて報告している。会議では前回の外部評価の結果の報告やホームの運営、ヒヤリハットの事例報告などを行い、議事録を整備している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	毎月のなびき便りで行事予定や季節のトピックスを伝えている。協力医療機関で健康診断を実施し、家族への報告を担当職員が行い、記録している。入居者ごとの金銭出納帳を整備しており、隣接の法人で管理している。職員の離職などは、家族が訪問の折に近況を交えて伝えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣のデイケアの利用者がお茶を飲みに来たり、ホーム前の花壇に花を植えたり気軽に立ち寄ってくれている。ホーム主催の屋台村には近隣住民を招待し交流している。自治会には加入していないが、地域の青年部の樽みこしの訪問を受けたり、入居者が文化祭に作品を出品したり、中学生の職場体験や幼稚園の慰問など交流が盛んである。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規程に「利用者が地域において総合的サービス提供を受ける事ができるよう努める」ことを明記している。法人の理念である「入居者の尊厳や人権を重視したケアの実践」を職員全員で分かりやすい言葉に変え、「その人らしさを大切に笑顔で寄りそう」をホーム理念として、玄関やリビングに掲示している。契約書、重要事項説明書に、地域との交流などを明記している。	○	理念にも地域密着型サービスの方針である「地域との交流」を明記していただきたい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は朝礼の際に理念を唱和し、ミーティングで日々のケアに活かされているか確認し合っている。その人らしい暮らしの支援のため生活暦を把握し、ケアの声掛けなどに生かすよう具体的に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接のデイケアの利用者がお茶をのみに来たり、ホーム玄関にお花を植えてくれたり気軽に立ち寄ってくれるようになった。外部評価当日も玄関に白菜、大根の差し入れがみられた。ホーム主催の屋台村に近隣住民を招待し交流している。自治会には加入していないが、地域の青年部の樽みこしの巡行があったり、入居者が地域の文化祭に出品をしたり、地域の学童の社会科見学等の交流の一助を担っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、各職員が分担して取り組み、ミーティングで共有している。職員は自己評価をすることで、初心にかえる良い機会を得ている。前回の外部評価後、水分摂取量の把握や、成年後見制度の家族への説明、アセスメント、モニタリングの記録の整備など具体的に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に関する規定を整備し、2ヶ月ごとに適切なメンバーで開催している。地域のグループホーム管理者も参加し、助言を得ている。家族が歩行困難となった入居者が歩けるようになったことを、感謝の念もこめて報告している。会議では外部評価の報告やホームの運営や行事計画、ヒヤリハット報告などを行い、議事録を整備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に入退去状況を連絡し、情報交換を行っている。市が主催する「徘徊ネットワーク作り」に参加し、意見交換を行っている。地域包括支援センター職員に研修会の講師を依頼している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度等に関する研修会に参加し、成年後見制度を入居者や家族に周知するために制度の説明書やパンフレットを整備している。今年は家族ふれあい会の際に、成年後見制度について説明している。	○	地域権利擁護事業の研修会の参加や家族説明の資料の整備をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のなびき便りで行事予定や季節のトピックスを伝えている。協力医療機関等で健康診断を実施し、受け持ち職員が家族に説明し、介護記録に記載している。入居者毎の金銭出納帳を整備し、隣接の法人で管理している。職員の離職等は随時入居者に話しているが、家族には訪問の折に近況と交えて伝えている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び公的機関の苦情担当窓口を明記し、ホーム内に掲示している。意見苦情箱を玄関ホールに設置している。今年は、屋台村の屋台を家族が担当したり、家族ふれあい会で家族同士が交流している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は認知症の特性から、馴染みの関係作りの重要性を理解している。今年度は資格を取得した職員が隣接する施設に異動しているが、その後も入居者と交流する機会も多い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用はハローワークを通じて行っている。60歳定年制であるが再雇用するなど、職員の年齢層も幅広く、趣味や能力が職場でも発揮できるようにクラブ活動を行ったり、内外の研修会に積極的に参加している。業務契約書や就業規則・サービス規程は整備され、定期健康診断も実施している。希望の休みが取れるように配慮し、定期的に有給休暇を取得する仕組みを設けている。休憩時間は設けていないが、入居者がくつろぐ時間を活用し、休息をとるようにしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	法人全体で人権研修を行っている。高齢者虐待防止マニュアルや身体拘束マニュアル、やむを得ない場合の身体拘束に関する同意書を整備している。外部研修会にも参加している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画があり、新任・現任の力量にあわせた研修に勤務時間内に参加し、ホーム内で伝達講習を行っている。また「GHみやわか」主催の研修会に参加し、認知症ケアについて学習する機会を設けている。普段の職員の悩みには管理者などが相談に応じており、隣接する介護保健施設長が毎年個別にメンタルヘルスチェックを行い、職員の悩みや精神面でのフォローを行っている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年、地域のグループホーム協議会「GHみやわか」に加入し、地域の同業者の研修会や職員同士の交流でサービスの改善に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	隣接の介護老人保健施設からの入居が多く、入居後の老健職員の声かけで不安が軽減している。他の病院からも入居希望者・家族が見学を訪れ、入居することがある。1対1のコミュニケーションから徘徊が少なくなり笑顔が増えたなど、なじみの関係作りを意識し初期対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の会話や介護で接する中で、入居者から聞き取る戦争体験や生活様式の変化など学ぶことが多いと話している。入居者が夜間「眠たいのにご苦労様・・」と声をかけてくれることで疲れがとぶなど、人とかかわることの喜びや何かをすると必ず帰ってくる笑顔や労いに、共に支える生活を実感している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式で入居者のできることやできないこと、生活に対する意向、生活暦、職歴等をアセスメントしている。入居者の生活リズムを週間スケジュールで把握しており、意向や希望が把握できるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	受け持ち制を導入しており、担当者が計画を立案しているが、計画の説明や同意の記載がない。担当者会議では生活状況を把握し、次のケアに生かせるように介護職員が参加しているが、入居者・家族の参加がない。計画書の記載に、本人および家族の意向の記載がないため、総合的な援助の方針が不明瞭になっている。	○	介護サービス計画書の第1表を活用し、本人・家族の意向の記載やホーム職員がチームとして取り組むべき総合的な援助の方針を明記して頂きたい。計画の説明や同意日の記載や、更新及び計画の見直しには担当者会議に家族の参加をお願いしたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごと見直しを行っている。見直しの際、チームで話し合いを行い家族に連絡している。モニタリング記録が整備しており、見直した計画を家族に説明している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する介護老人保健施設と合同の運動会や敬老会、ドライブなどに参加し、デイケア利用者との交流や気分転換を図る機会を作っている。リハビリテーション職員から機能訓練の助言を得て、ADLの改善につなげたケースも多い。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医受診や協力医療機関受診を支援し、健康を管理している。遠方の受診や点滴等の治療が毎日必要になった場合など、病状説明のことも含め家族支援をお願いしている。かかりつけ医の受診状況は、定期、臨時にかかわらず受け持ち職員が家族に報告し、ケア記録に記載している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に健康管理として医療機関との連携を明記している。医療連携体制に関する指針を整備しており、意向確認書の作成が行われているが、具体的な記載項目がないため、重度化や看取りの意向の確認が行いにくい。	○	入居が長くなるほど、入居者の重度化は否めないため、意向確認書に具体的な記載ができるように見直しをお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の利用目的を明記した書面をホーム内に掲示し、入居者や家族に説明し同意を得ている。母体法人が主催した研修に参加し、ホーム全体で入居者のプライバシーの確保や丁寧な対応に取り組んでいる。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の担当者が日常の会話から毎日の過ごし方を把握し、一日のスケジュールもゆっくり穏やかに過ごせるように支援している。個別に週刊誌や新聞を購入したり、行きつけの美容院への外出や、自室での晩酌など柔軟な対応を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材卸業者の管理栄養士が献立を立案しているが、嗜好アンケートでメニューが変更することもある。飲酒の嗜好のある入居者は節度ある範囲で日々の晩酌を楽しんでいる。入居者の能力に応じて野菜の下ごしらえや茶碗拭きなどを支援している。入居者の気に入った食器を使用している。入居者の食事介助をしながら、自らも食事をしているホーム職員には、さながら自宅で家族の介護をしている雰囲気を感じられる。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望にあわせて朝から入浴できる。家族に協力していただき、自宅で入浴している入居者もいる。入浴拒否をされる入居者には、お手伝いをお願いするなど導入を工夫し、無理のない入浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	下げ膳や食器拭き等で役割づくりを支援しており、自分の出番を取り合いになることもある。習字指導での書道やちぎり絵などで生活に張り合いが持てる場を提供している。毎日、新聞の購読を楽しみにしている入居者もいる。ホーム単独の芸能大会で、今年は入居者と職員が手話に挑戦した。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画でお花見やドライブに出かけている。母体法人と協働で遠出の外出をしている。日ごろは、気分転換に隣接の介護老人福祉施設に出かけたり、近隣の農道に散歩に出かけている。福岡ドームへのプロ野球観戦や大型ショッピングセンターへの外出で、入居者が生き生きしていたことに職員は驚きと喜びを感じた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は施錠せず、センサーでドアの開閉のチャイムが鳴るようにしており、職員の見守りも行われている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルを整備し、隣接する母体法人とともに防火対策委員会を設けて、年2回の防災訓練を実施している。災害時は近隣に住んでいる職員から応援に駆けつけられるように連絡網を整備している。法人内に米、飲料水、レトルト食品等を備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士が週間メニューを作成している。入居者の嗜好を把握し、既往症に応じた水分・食事摂取を支援している。一日1200から1500mlの水分摂取を支援し、水分摂取量を記録している。糖尿病のある入居者には小さめの茶碗にするなど工夫し、食事摂取量を記録している。毎月、体重を測定している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>2ユニットの中央にそれぞれの玄関口があるが、玄関内は共有になっており、ベンチがおいてあり、観葉植物や生花が飾られ、来訪者をほっとさせている。ユニットの仕切りを開閉できるようにしており、開放的な時間と静寂な時間とのメリハリを作っている。リビングや廊下壁面には日ごろの活動で作成したちぎり絵や書道など力作が展示してある。ゆったりとくつろぐソファや椅子、テーブルで入居者は思い思いに過ごしている。、居心地が良いせいか、日中はほとんどの入居者がリビングで過ごしている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>夫の遺影やなじみの家具などの持込がある。壁には家族写真や、作成した書道や父の日、母の日の家族からのメッセージ、敬老の表彰状などが張られている。入居者は毎日見ること、家族のために元気で長生きしようと、明日の活力にしている。テレビや冷蔵庫の持ち込みもあり、嗜好品の保存をしている入居者もいる。ADLの変化に合わせて電動式ベッドを利用している。</p>		